

2011年3月9日

北沢タウンホールにて「発達障害理解のための講演会」を開催しました

発達障害のある当事者から聞く

自閉症の人の生きにくさと社会における支援についてわかってほしいこと

主催：世田谷区発達障害相談・療育センター 後援：世田谷区、社会福祉法人嬉泉



当センターでは『発達障害理解のための講演会』を開催しています。今回は世田谷区でも長年発達障害者支援を行ってきた石井哲夫（社会福祉法人嬉泉常務理事・東京都発達障害者支援センター長）が、成人の発達障害のある当事者2名との鼎談を行いました。発達障害があるとはどういうことか、発達障害のある人への必要な支援とは何かについてお話し頂いた内容の一部をご紹介します。

【自分の特性に気がついたのは・・・】

コミュニケーションのこととか友達とか勉強とか、他の兄弟に比べて自分はできなかったのになんか違うなと感じていました。大学の相談室で自閉症かADHDじゃないかと言われ調べているうちにオウム返しとかコミュニケーションの難しさとか当てはまると思っていました。

A

さん

20代男性。大学卒業後、デイケアを経て地域の就労支援機関で就労支援を受けてきた。現在は高機能自閉症があることをオープンにした障害者雇用で清掃等の仕事に従事。

【いじめ・・・】

自分のできないことで1対1で責められることが多かったです。初めは心配かけたくないと思って言わなかったんですけども、後から先生にどんどん言ってもいいよと言われてから、声をかけるようになりました。

司会より：人に言われて悩んでいる状態は、外側からわからない。非常におとなしくて、弱々しくて、返事をしなくてもっと元気になれとか、積極的になれと（周囲の人は）言うけれども、「自分としてはこれで精一杯やっているんだ」ということをわかってもらいたいということですよ。

【職場では・・・】

自分のコミュニケーションの難しさをわかってくれ、当然雑談とか苦手なんですけどほとんど言われることがないです。オープンにしてよかったと思います。

【わかってほしいことは・・・】

自分をストレスのはげ口として言った側はすっかり忘れても、言われた私はストレスがたまって、実は暴れてもおかしくなかったし、情緒不安定になったりもしました。私の弱いところだけを指摘するのは社会的にもなんか不公平だなあと感じました。配慮してもらいたい点は、注意するときはやさしく声をかけてほしいとか、注意するだけでなく、自分の生きにくさを、言いたいことがなかなか言えないっていう、つらかったことを共感してもらえると非常にありがたいと思っています。

【家族や周囲との関係は・・・】

これまでは波風をたてないよう姉のご機嫌をうかがったり、父や母に対しても怒られたりしないように注意して生活していたと思います。いじめっ子の近くには近寄らないようにしていました。

B

さん

40代男性。大学卒業後、いくつかの仕事を経て、3年前医療機関を受診。アスペルガー症候群と診断を受ける。現在は障害者雇用で設備管理等の仕事に従事。

【人との付き合いは・・・】

不特定多数の人たちとずっと人間関係を保っていくということだけが苦手なのであって、それほど人数が多くなれば難しいことではないと思っています。

【アンバランスさ・・・】

できることとできないことの差が激しい感じがします。型にはまったことはできますが、臨機応変は苦手で、例えば参考書を見たり細かく聞いてからでないで安心して作業が進められないことが多いです。でもとにかくできるようにするまで時間をいただきたい。

【将来は・・・】

きちんと人と変わらない仕事をしながらの生活を保つことが大切であって、これから考えるころの余裕がまだありません。将来もう少し広い部屋で生活できるよう目標を掲げているところです。

【仕事について・・・】

普通の人にはない注意力、集中力というプラスの面を利用して、ミスや間違いをちゃんと見逃さずにチェックする仕事を頼みますよと、私のことを信用してくださるようになるといいなと思っています。

司会より：（自分が得意な）型にはまった仕事だけではなく、（苦手なことでも）時間をかけてでも自分で考えてやれるようにしていきたいということですね。

鼎談を終えて・・・

Aさんから：今日は皆さんに対してどういうふうに言えばいいのかと、結構悩んでいたりしましたが、自信はないですけど、多少なりとも言えたかなあと感じます。

Bさんから：自分は何を考えながら生活していたのか、どういうふうに取り組もうか、生活していこうか、声に出して言っているうちに、少しずつ方向性がみえてきた感じがします。

司会（石井哲夫）から：障害や能力の有無、仕事ができるとかできないとかで人を見ることが、当事者のAさんを人間不信に、Bさんを人との接触を避けるという状況にしていたのだと思います。それでもこの二人は今それぞれの職場等で苦勞しながらも働き、経験を自分の中にちゃんと取り入れ、行き詰ることがあってもそれを乗り越えられるよう自分を育ててくれたことに私は大変敬服しています。

話す努力をすることですいろいろなことを考えるようになったとお二人もおっしゃっています。私も言葉の力を教えられました。当事者が言い足りないことを補う当事者性を、この世田谷区発達障害相談・療育センターでもすすめていってもらいたいと思います。お二方には大変長い時間お話し頂きました。一生懸命お話し頂いたことを心から感謝します。

会場の声

- * お話をするお二人はとてもたくましいと感じた。自閉症という障害を受け入れ、それとともに生きていくことは簡単ではない。勇気つけられた。私の家族がどうなっていくか不安だが、出来ることは何か、どのようにサポートしたら良いのか見極めていきたい。
- * 本人たちが何を感じ、この社会の何が嬉しいのか。生きにくいと感じている人の感覚を大事にしたい。コトバの力を改めて感じた。
- * 周囲に気を遣い、よく考えながら話していることに驚きました。社会が複雑になって、生きづらくなっているのですね。もっと大らかにキャパシティの広がった世の中になっていかなければなりません。紳士的な様子が、せつなさを感じました。
- * 障害を今まであまり理解しようとしていなかったことを実感させられました。当事者の方々が大変な努力をしているのだから受け入れる側も気持ちよくみ取る努力をしなければいけないと切実に思いました。
- * 漠然としていた発達障害の当事者の生きづらさが少しわかった。石井氏の社会の側の問題なのだと言われた言葉がその通りだと思った。
- * 仕事場と同じ様な考えの人に対しての理解が持てず対していました。今回の話を聞くことで、もう少しわかってあげられたらと感じました。